

令和元年度 奈良県知事賞

「税への意識の持ち方」

川上村立川上中学校 三年 森野 瑞喜

僕は租税教室をうけ、自分が将来大人になったら、どのような気持ちで税に関わっていけば良いのかを改めて考えました。

そして、僕たちの意識とそれを支える環境や制度があわさることで、もっとよりよい社会・生き方ができると思いました。

そう思ったきっかけは、租税教室をうける中で、「近い将来、高齢者などの働けない一人の生活・お金を働ける若い人一人が支えていくことになる」という話を聞いたからです。そして、高齢者には介護・支援も必要です。ただでさえ、働けない人を支えていかないといけないのに、自分の身内も介護しないといけないとなると、働く人への負担はとて大きいと思います。僕の親も祖父母の介護をしていますが、とても大変そうです。介護だけでなく、子育てであっても、仕事を辞めないと家族を支える時間がないという状態になる例は少なくないそうです。少子高齢化が進む中で、例のように離職する人が増え、労働人口が減っていくと、国としても辛くなるという悪循環になります。

仕事をしている顔はその人の半分でしかありません、家族としての役割を果たす必要もあります。無理せず、上手く両立できるようにするために、国は「ライフ・ワーク・バランスの推進」と、国の制度として確立してくれています。ライフ・ワーク・バランスとは、国民一人一人がやりがいや充実感を持ちながら、働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、多様な生き方ができることです。育児休業制度や介護休業制度もこのひとつです。

今では共働きも多く、僕の周りにも育休、介休をとる人がいます。でも、まだまだ世の中には広まっていない部分もあるし、特に男性の育休、介休はそうだと思います。「奥さん休んでるのに、あなた（夫）もやすむの」と周りから良くない目で見られるだろうし、僕でも、少し躊躇してしまうと思います。でも女性も男性も同じように働いているし、国も男性・女性だからいけないという決まりは作っていません。だから僕は、そういう周りの偏見をなくし、自分たちの考え、意識を改革しないといけないと思います。

働いている人たちや、将来働く僕たちのことを考えて、国民が納める税金を使ってこのような努力を国がしてくれています。税率が十パーセントに引き上げになるのも、国が国民のためにどうすればいいかを考えた結果、そういう結果になっただけで、批判する必要はないと思います。国民一人一人がきちんと自分と税の関わり方を理解し、その税をどう生かしてくれるのかを考えたいので、自分の税への「意識」を振り返ることで、もっと自分たちが納得して生きられる社会になると僕は思います。